

独立混成第八十九旅団独立歩兵第五百二十四大隊 略歴
 (通 称号 至航カニ三〇八二部隊)
 陸軍中尉 出 町 重 義

年 月 日	概 要
昭三、三、三〇	<p>備成完結の状況</p> <p>第三次帰還要員として出町中尉以下三四六名帰還準備を命ぜられ同日備成完結 旅団輸送指揮官安斉大尉の指揮に入る</p> <p>行動及其の日時 欠刃</p>
三、三、二〇	<p>南京出張中管出発</p> <p>上海市政府到着 一泊</p>
三、三、一〇	<p>中国側携行品検査</p> <p>四日一四〇〇時LST六五四号に乗船 上海港出帆</p>
三、三、一〇	<p>左世探港上陸</p> <p>同日復讐式挙行 矢力出町中尉以下三四六名 入院生死不明死亡等なし</p> <p>但し陸軍々医大尉長崎康實 中国人医還阿診断に任せしとの理由の下に左世候に於てLST六五四号に留用せらる</p>

~249~

年月日	概
<p>一六 一三</p>	<p>残留整理者として出町中尉二日市到着 残務整理終了す</p>

小
中
三

~250~

3105

独立歩兵隊第五百二十四大隊略歴

陸軍少佐 後藤 學

年月日	概 要
昭三〇、三、三	編成完結
昭三二、一、三	部隊長陸軍少佐後藤學以下一八〇名上海南吳松に於て現在乗船待期中 部隊の一部陸軍大尉山本義男以下二二六名部隊の坑道を命ぜられ上海呉淞港 出発
一二四	任世保を上陸
	その他参考事項記入院なし
	坑道人員二二六名（内業務整理者一を含む）
	その他要状なし

ハ257〜

3106

獨立混成第八十九旅團獨立歩兵第五百二十四大隊略歴

年月日	概要
昭三〇、三、五	軍令陸用ホ一八号により中華民國浙江省留州に於て獨立歩兵ホ五二四大隊編成
昭三〇、三、九	ホニ中隊長陸軍大尉武田孝以下一五〇名部隊主力の歸還に先立ち先行隊を命ぜられ上海旧市政府に集結
三、九	中國側検査官與施せる携行品検査異状なく終了
三、一〇	船符の捺同所に商官
三、一〇	一五〇〇飯田棧橋に於て敷設艦着州に乗船
三、一〇	〇七〇〇出巻 海路異状なし
三、一〇	〇九〇〇全員志願旺盛にて博多港に入巻す
三、一〇	一五〇〇上陸地に於ける検査携行品検査その他諸般の復員業務終了
三、一〇	一六〇〇復員式を帯りて終了
三、一〇	業務整理者武田大尉を除き外橋本中尉以下一四九名は岳川行復員列車に依り夫々帰郷先に帰郷せり

内 中支隊

独立歩兵第五百二十四大隊 略歴

陸軍少佐 後 藤 學

年 目 日	概 要
昭一九、七、五	浙閩沿岸作戦参加の約廿六十師団独立歩兵中隊四七大隊は本部歩兵二中隊重火器に中隊を以て杭州に集結
八、一	歩兵中隊五十五旅団長の指揮に入る
八、二	金華に於て廿七十師団独立歩兵中隊の四中隊の各一中隊を編入行動を開始
八、三	麗水城を攻略
九、八	温州入城
一〇、一	浙閩沿岸作戦終了
昭二〇、三、五	引籠り温州城確保
五、五	軍令陸用中一八号により独立歩兵中隊八十九旅団独立歩兵中隊五二四大隊の編入成を完結
五、五	引籠り温州城確保
六、五	集結作戦参加
六、五	温州城撤退

~253~

年月日	概	要
昭三〇、六七	通州沿岸要域より輾轉奉化に集結同地附近の警備並に光号作戦の準備	
八三	奉化出發上海に向う	
八四	停戦詔書發布	
八三	杭州集結	
八五	復員下令	
八六	上海集結	
昭三〇、一一	才一次復員	一三〇名
一四	才三次復員	二四六名
一四	才四次復員	二二五名
	計	八二一名
三四	才五次復員	一五〇名
	才六次復員	四九名
四四	部隊主力二一名付上海出發	
	博多港上陸	
四一〇	復員式修了	

外 中文

~254~

3109

独立歩兵第五百二十五大隊略歴

年月日	概	要
昭二〇、六、五	軍令陸用ホ一八号に依り中華民國浙江省温州に於て独立歩兵ホ五二五大隊編成を完結す	
六、	東粵作戦の終期浙江省奉化に集結を命ぜらる	
七、	奉化県城に到着	
八、四	海戦と共に上海に集結	
九、九	南京に於て待期中岡野中尉始め一回一名は先行帰郷を命ぜらる	
昭二、三、九	上海旧市政府に集結	
自	中甸側検査官の奥赴せる携行品検査を異状なく終了	
三、九	船符の終同所に於て宿泊	
三、一〇	十五時飯田樺橋より敷設艇育洲に乘船（輸送指揮官松本五二五六武田大佐）	
三、二二	博多港上陸	
三、二四	四時五下諸船与との他順調に完了	
	復員式奉行	
	残務整理者 岡野中尉を残り夏加中尉以下一四〇名は一四一三博多駅至復員	
	列車にて夫々帰郷せり	

~255~

3110

独立歩兵第五百二十五大隊略歴

年月日	概	要
昭一九、七、三	<p>浙閩沿岸作戦（温州作戦）参加の茲中六十師団中五六旅団中五〇大隊は本部 中一、二、四中隊内鏡中隊歩兵砲中隊を以て杭州に集結 歩兵中五五旅団長の指揮に入る</p>	
八一	<p>杭州南星橋に於て独立歩兵中一、二大隊の一中隊を編入 作戦行動開始</p>	
八三	<p>麗水攻略、大隊長林大佐負傷</p>	
八五	<p>中七〇師団より部隊長として瀬尾大佐着任</p>	
九七	<p>温州入城、直ちに柳市地区に向う</p>	
九〇	<p>柳市地区に到着</p>	
昭二〇、二、三	<p>浙閩沿岸（温州）作戦終了</p>	
二五	<p>引続き柳市地区の確保並警備築城 瀬尾部隊長、衢州転任、藤瀬部隊長着任 軍令陸用中一八号並中一三軍参動中六十号により、独立混成中八九旅団独立歩 兵中五二五大隊編成完了 引続き地区確保並築城</p>	

~256~

3111

乙

外

中
支
3

年月日	機要																																
	<p>編成表</p> <table border="1"> <tr> <td>本部大隊長</td> <td>少佐</td> <td>藤沼浩哉</td> <td>以下一〇五名</td> </tr> <tr> <td>中一中隊</td> <td>中尉</td> <td>岡野烈太郎</td> <td>以下一一五名</td> </tr> <tr> <td>三中隊</td> <td>中尉</td> <td>上村正二</td> <td>以下一一九名</td> </tr> <tr> <td>四中隊</td> <td>大尉</td> <td>岸栗蔵</td> <td>以下一二〇名</td> </tr> <tr> <td>機中隊</td> <td>中尉</td> <td>富田理夫</td> <td>以下一二四名</td> </tr> <tr> <td>歩砲中</td> <td>大尉</td> <td>岸 英孝</td> <td>以下九九名</td> </tr> <tr> <td>通信</td> <td>大尉</td> <td>小山義人</td> <td>以下一三三名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>大尉</td> <td>伊藤 宏</td> <td>五一一名</td> </tr> </table>	本部大隊長	少佐	藤沼浩哉	以下一〇五名	中一中隊	中尉	岡野烈太郎	以下一一五名	三中隊	中尉	上村正二	以下一一九名	四中隊	大尉	岸栗蔵	以下一二〇名	機中隊	中尉	富田理夫	以下一二四名	歩砲中	大尉	岸 英孝	以下九九名	通信	大尉	小山義人	以下一三三名		大尉	伊藤 宏	五一一名
本部大隊長	少佐	藤沼浩哉	以下一〇五名																														
中一中隊	中尉	岡野烈太郎	以下一一五名																														
三中隊	中尉	上村正二	以下一一九名																														
四中隊	大尉	岸栗蔵	以下一二〇名																														
機中隊	中尉	富田理夫	以下一二四名																														
歩砲中	大尉	岸 英孝	以下九九名																														
通信	大尉	小山義人	以下一三三名																														
	大尉	伊藤 宏	五一一名																														

～258～

3113

独立歩兵五二五大隊の一部略歴

代理陸軍大尉 沖 良人

年月日	概 要
昭三、一八	陸軍大尉沖良人他一七三名を以つて中四次役員部隊を構成す 吳淞中三集司令部出発 上海兵器廠に三泊
一三	市政府に於て博行品の検査を受く LST九八一号に乗船
一四	在世家巷上陸 兵力一七四名
一五	残務整理の爲陸軍大尉沖良人二日市に返着整理に着手
二一	完了す

~260~

3115

年月日

昭一九、七三
七、五

概

要

浙東沿岸（温州）作戦開始に先リ同作戦参加の目的を以て中六師団（在南京）より集成大隊の編成派遣を命ぜらるる
どの編成部隊左の如し

編成中隊号	差出部隊	隊長氏名
大隊長	歩兵中一五七聯隊中一大隊長	大尉・小野 厚省
大隊本部	歩兵中一五七聯隊中一大隊本部	
中一 中隊	歩兵中一〇一聯隊中八中隊	中尉 石渡 三郎
中二 中隊	歩兵中一四九聯隊中六中隊	中尉 小原 喬松
中三 中隊	歩兵中一五七聯隊中二中隊	中尉 小池 稔男
中四 中隊	歩兵中一五七聯隊中八中隊	中尉 秋山嘉石門
機関銃中隊	歩兵中一五七聯隊中一機関銃中隊	大尉 青 藤 廣
歩兵中隊	歩兵中一四九聯隊歩兵砲中隊	大尉 高 橋 剛

全部隊を南京駅附近に於て掌握編成を完結
南京駅出発
夕刻杭州に到着
同地に於て梨岡支隊長の指揮に入る

3

外

中支3

~262~

3117

至	自	
七三	九六	抗州出發 金華到着
八三	九七	同地附近に於て作戦準備訓練を実施部隊の団結の鞏化と必勝不負の猛訓練を実施せり
八六	九八	金華出發 武義附近に於て進行を準備
八三	九三	夜、行動發起 武義附近の堅陣を突破
八三	九三	長駆急進、作戦を準備
九二	九三	再度行動發起 瓯江左岸の險難なる地区を東南進
		海口市青田を経て温溪街附近に進出時舟筏に依り下航中の舟筏隊の救出の爲
		反転
		青田——石溪の上流に於て連絡を確保
		更に反転支隊主力を急進す
		青田附近、石溪附近に於て約六七百の敵を撃破舟筏の下航を容易ならしむ
		任田渡——温州を経て瓯江河口の要衝盤石鎮を占領す

~263~

3118

年 月 日	概 要
昭九、九、三	温州附近要域を確保し光号作戦準備の善鋭意陣地構築を更施すると共に地区内外の肅正、教育訓練に資進す 此の固梅頭所域海安所域附近の討伐 二十三日自瑞安原城附近の討伐更施 軍令陸用才一八号により編成改正着手
昭三〇、二、一	編成完結 独立歩兵中五二六大隊と稱せらる。その編成時における將校職員表附表才一の如し
二、三五	集合作戦（才一期）開始に伴つて之支隊（福州占領部隊）の前進防護並に連絡の善行動開始 先ず瑞安原城を占領 平陽原城を攻畧
五、六	冀江（青竜江）渡河点たる錢倉、古費頭を急襲 同地附近に在りたる瑞安縣、平陽県、國民兵団約六〇〇撃退し之を確保せり 渡河防護の善要吳占領
六、八	渡河資材の蒐集船長の構築糧秣の蒐集を更施 之支隊の進出に伴い是等に移譲

~264~

3119

六九	反転
六一	原態勢に復す
六五	<p>二期作戦開始せらるや放田の後継として湯川要域の撤収を開始</p> <p>樂清 — 虹橋 — 芙蓉 — 古鵜衝 — 大荊鎮 — 天國鎮 — 路橋 — 海門道</p> <p>を海門に向い前進</p>
六九	<p>海門鎮に進出</p> <p>此の間辻橋界赤岩、芙蓉、樟樹下新生岩附近に於て新編二十一節約十名と交戦之を撃退す</p> <p>海門に於て之支隊に追及し新昌、嶺東地区に進出すべき命を命り直に蕭江を渡河し海門 — 蒸橋 — 台洲東北地区 — 天台 — 台観殿 — 横板橋 — 新昌 — 嶺東道を新昌、嶺東地区に向い前進</p> <p>途中小戦を数回交之たるも進軍に進出之支隊と連絡を確保し得たり</p> <p>嶺東進出</p>
七六	<p>前任部隊たる馳驅兵団の中隊と警備交代を実施</p> <p>同地周回（新昌竹岸を含む）の警備反光号作戦準備の海陣地構築に従事</p> <p>此の間数次に亘りて出勤附近の蕭正に任ず</p>
八五	<p>某方面転用の嶺東地区の警備を撤し出発</p> <p>嶺東 — 章鎮 — 曾城鎮 — 紹興 — 蕭山道を蕭山に向い前進</p>

~265~

3120

年月日	概要
八八	蕪山に進出集結す 曾城鎮に於て停戦命令を受く
八六	蕪山出発 鉄道輸送により上海、南市に到り同地附近の警備を六師團歩兵サ一五七 聯隊より継承
九三	同地附近の警備 任務を中国側に移譲
九四	夜南市出発 南興松葉中隊に移動
三五	以来復員準備教育施設 カ一次以後逐次復員す

外 中支

~266~

3121

昭三 一〇	昭三 一一	昭三 一二	昭三 一三	昭三 一四	昭三 一五	昭三 一六
オ一次帰還	小原大尉以下 一三〇名	オ二次帰還	安齊大尉以下 二四八名	オ三次帰還	青藤大尉以下 一九三名	オ四次帰還
オ五次帰還	秋山大尉以下 一三二名	南少尉以下 五〇名	オ六次帰還	小野少佐以下 二六名		

送の状況左の如し

~267~

3122

年 月 日	概 要
昭三、一、二六	一ヶ月間青柳大尉以下一三〇名中国側労務の差遣
昭三、一、二六	その他短日次の勞働人員延約二〇〇名派遣
二、一九	四〇名 追加工務役に従事
四、三	斯くて主力部隊たる中六次後援者部隊長以下二六名集中營出発
四、四	上海出帆
四、一〇	博多上陸
	一四時復員式終了
	二三時三〇分発列車に依り業務整理者以外全員元坂旺盛一路家郷に向い出発

~268~

3123

独立歩兵第五百二十六大隊略歴

歴軍大尉 安斉良治

年月日	概要
昭三〇、三六 昭三二、一一。	<p>一部混成編遣</p> <p>編成</p> <p>将校 七</p> <p>准士官 五</p> <p>下士官 六二</p> <p>兵 一六三</p> <p>奇 二四七</p> <p>大隊内各中队より抽出編成</p> <p>行動概要</p> <p>復員帰還内命発令（旅団）</p> <p>江蘇省吳淞集中營出發</p> <p>上海市政府着</p> <p>同所に宿營</p> <p>干前軍装及私物品検査</p>

~269~

3124

年月日	概	要
昭三、一、二二	米國LST六五四号	
一四	十二時佐世保に上陸	
	直ちに同所に於て被救	
	舟尾毒兵田兵舎に宿營	
一五	十五時復員式舉行	
	二一時兵舎出発 各人歸郷	
一四	村上中尉は、佐世保に於て船内医官として米軍に抑留せらる	
	戦名は復本に依拠	
	大隊の創立	
昭三、二、五	浙江省樂清県盤石に於て(軍令陸用カ一八号)	
	本部一 中隊六 通信小隊一 編成	
	初代大隊長 陸軍少佐 小野厚省	
	現在大隊長 " " (在吳越)	
	大隊主力現所存地反行動	
昭三、一、三	大隊長以下江蘇省吳淞鎮張華浜集中營に在りて乗船待期中	
	機務整理者 准尉 山崎 栄 二日市	

270~

3125

独立歩兵第五二七大隊（至統中二三〇五八部隊）略歴

陸軍大尉 海野 鯉 啓呂（終期）

年月日	概	要
昭二〇・二二五	編成	
一一	軍令陸用中一八号に據り獨立歩兵中五二七大隊臨時編成下令	
二五	編成完結	
三五	浙閩沿岸地区（温州周辺）確保	
五三	集号作戦参加	
五四		
七七		
七八	奉化附近警備	
八五	停戦詔書発布	
八六	上海移住開始	
八五	復員下令	
八六	上海局同日より上海地区警備	

~271~

3126

年月日	概要
昭三〇、九三	停戦後定歸結
自 八元	接收業務
至昭三二、三三	帰還部隊（独立歩兵隊才五二七大隊の一部）安田大尉以下三六四名の行動隊長 陸軍大尉 安田卓郎
昭三、一八	帰還内報受領
一三二	上海旧市政府に集合
一三三	上海港出帆
一三〇	鹿児島港上陸
八五〇	除隊召集解除
一五九	残留者
一五九	部隊主力（海野大尉以下 名）上海南受給に在りて帰還待期中在り
一五九	業務整理者 陸軍大尉 安田卓郎
一五九	陸軍伍長 甲田元三郎 召集解除
一五九	陸軍曹長 高見勇雄 召集解除
一五九	陸軍一等兵 八木 完吉 召集解除
一五九	帰還人員内訳

~272~

3127

6

中支了

自	至	
一五	二四	二四
将校	一八名	
准士官	二名	
下士官	五一名	
兵	二九三名	
合計	三六四名	
安田大尉は三田市にて残務整理		
完了		
戦時名簿は全部(三六四部)地方世話部へ各々送附す		

~273~

3128

独立歩兵第五百二十七大隊略歴

年月日	概	要
昭五、八一	<p>浙南右岸（温州）作戦開始に先かけ同作戦参加の目的を以てオ七十師團独立歩兵オ百四大隊（在嘉興）は杭州に集結梨岡支隊長の指揮に入る</p>	
八二〇	<p>同地附近に於て作戦準備訓練を実施部団の団結強化と必勝不負の訓練を実施</p>	
八二七	<p>麗水城を攻略</p>	
九一八	<p>温州入城</p>	
一〇一〇	<p>浙南沿岸作戦を終了</p>	
昭三、二五	<p>引続き自衛鎮に在りて同地附近確保</p>	
昭三、二六	<p>司令陸用オ一八号並に二三軍参動オ一六号に依り独立歩兵オ五百二十七大隊と改稱</p>	
昭三、二七	<p>部隊長</p>	
二五	<p>陸軍大尉壽野鏡麻呂オ七十師團オ百二三大隊歩兵砲中隊長を独立混成オ八九旅団に歩兵オ五二七大隊即ち当大隊長を被仰付</p>	<p>大隊長として着任</p>

6
外
中支3

~274~

3129

昭三〇、三、三五	至 五三	自 五三	至 七七	自 七八	至 八三	自 八三	至 八四	自 八六	至 八〇	自 九二	至 九五	自 三五	至 三五
浙江省樂清自象地区に於て自像鎮板橋村、黑喬林、白石街、萬成坪、外番に 介駐確保	奉化の附近の警備 (上田畷市並に西場鎮に分駐) カ六号作戦参加の為駐地出発	停戦詔書発布	杭州に集結	鉄道輸送に依り上海豊田銜鎮工場に集中	停戦協定締結	各種兵器一切中国軍に移譲完了す	吳淞日華銜鎮工場(カ四案中區)に移動す	復員状況	以米復員準備教育を実施	カ一次とし遂次復員す	カ一次	菊地軍医大尉以下 一七〇名	

~275~

3130

年月日	概	要
昭三、三、五	<p>中二次 三濠大尉以下 二九九名</p> <p>中三次 佐藤大尉以下 三六四名</p> <p>中四次 三好大尉以下 六六名</p> <p>中五次 天野少尉以下 三〇名</p> <p>中六次 部隊長（海野大尉）以下四〇名</p> <p>停戦後在支間の状況</p> <p>中田側軍馬管理（園尾大尉以下三〇名）並に勇役に服し延人員約三千名を収養せり</p> <p>斯くて主力部隊たる中六次後員者部隊長以下四〇名集中營出発</p>	四三

~276~

3131

<p>四回 上海出帆 四〇 博多に上陸 四二回 復員式終了</p>	<p>二三時三十分発列車に依り残務整理者以外全員元寇旺盛家那に向い出発</p>
---	---

~277~

3132

独立混成第八十九旅団独立歩兵第五二七大隊略歴

年月日	概 要
昭三、三九	<p>独立歩兵第五二七大隊三好大尉以下六六名吳淞に於て同編成を以て先行帰郷を命ぜらる</p> <p>。四。吳淞兵舎出發</p> <p>。七。市政府致首</p> <p>中国餉検査を受検</p>
三二	<p>一七。輸送船才三十二幡州丸に乗船（輸送指揮官五二七大隊三好大尉）</p> <p>。七。上海港出帆</p>
三四	<p>。六。博多港上陸</p> <p>一三。迄に諸給与その他順調に終了</p> <p>一四。復員式挙行</p> <p>疾務整理者森永軍曹を殊し三好大尉以下六五名</p> <p>一四、一三博多發復員列車にて夫々帰郷せり、輸送回華政方し。</p>

年月日	概	要
昭五、八五 自昭九、八五	軍令陸甲才九一号に依り独立機関銃才九大隊編成	
至一〇、一〇	浙甯沿岸作戦(温州作戦)参加	
自一〇、二一	温州附近の警備	
至昭三〇、六七	集号作戦に参加	
自六六		
至七七		
自七八	浙江省奉化附近の警備	
至八八		
自八五	上海(呉淞)にありて集結発留	
至昭三、一四	飯塚のため上海出帆	
昭三、一五		
一八	佐世保上陸	

独立機関銃第九大隊(至統第七三五七部隊)略歴

陸軍少佐

佐々木久雄

~279~

3134

内 申支

独立混成第八十九旅団砲兵隊の一部（至砲中二三〇七部隊）略歴

陸軍少佐 川上 菊治

年月日	概	要
昭三〇、二、一 二、五	軍令陸用才一八号に據りて独立混成才八十九旅団砲兵隊臨時編成下令 編成完結	
自 二、五 至 五、三	新開沿岸地区（益村頭辺）確保	
自 五、三 至 七、七	兼号作戦参加	
自 七、七 至 八、五	奉化附近警備	
自 八、五 至 八、二六	停戦詔書発布	
自 八、二六 至 八、二八	上海移駐開始	
自 八、二八 至 八、二八	復員下令	
自 八、二八 至 八、二八	上海首	
自 八、二八 至 八、二八	上海地区警備	

~ 281 ~

3136

年月日	概要
昭二〇、九二 自 八五 至昭三、一三	停戦決定締結
	接收業務
	帰還部隊（砲兵隊の一部糧本大尉以下一三五名）の行動
	帰還内報受領
	上海旧市政府に集結
	帰還の途上海港出帆
	鹿兒島港上陸
	除隊召集解除
	残留者
	支那残留
	砲兵隊主力（川上少佐以下一二〇名支那側教育委員含む）は日下上海南吳松に在りて帰還待期中 残務整理者
	陸軍大尉糧本仲次郎召集解除
	陸軍曹長窪 芳 長召集解除
	陸軍二等兵加藤政直（右肩）

支那

独立混成第八十九旅附砲兵隊略歴

年月日	概	要
昭五、二、五	軍令陸甲中十一号に依り臨時編成下令	
兵、五	編成中一日	
三、〇	編成完結	
	野砲兵中一聯隊 野砲兵中五十八聯隊より充當す	
	(獨立野砲兵中七一八隊)	
三、五	支那派遣の滿州國軍河省派兵出發	
	滿支國境(山海關通過)	
四、一	中華民國江蘇省寶應縣行鎮着	
	同地警備	
八、五	中三中队獨立混成中六十二旅團に配属	
一〇、五	上海港出帆	
一〇、八	中華民國浙江省樂清縣盤石上陸	
一〇、三	盤石出發	
	新橋村着	
	同地警備	

年 月 日	概 要
昭三〇、三一 二二〇	軍令陸甲力一八号に據り独立混成歩八十九旅団臨時編成下令 編成第一日
三三五	編成完了
	独立野砲兵第七大隊中隊欠 野戦主砲兵中隊十三聯隊中隊一隊補充 (独立混成歩八十九旅団砲兵隊)
自 二五 至 五三	温州附近確保
自 五前 至 七七	集合作戦参加
自 七八 至 八五	秦化附近警備
自 八六 至 八八	停戦詔書発布
自 八八 至 九二	上海後継行軍参加 復員下令 停戦決定停戦

~284~

3139

昭三・三二

三二

上海港出帆

博多港上陸(帰還の途)

復員式

復員完了

~285~

3140

独立混成第八十九旅団砲兵隊（至昭二〇、三〇、八七）略歴

年月日	概	要
昭二〇、三三	編成兵備改備	
	中華民国浙江省象潭縣新橋村に於て編成	
	独立野砲兵才七大隊（才三中隊欠）	
	及野砲重砲兵才三聯隊才一中隊充當せられて編成す	
	編成後兵備改備す	
昭一九、四一	独立野砲兵才七大隊渡支	
	中華民国江蘇省崑山縣楊行鎮節号作戦参加	
	同地駐屯	
	上海出発	
	海路附近に至り同地附近警備	
	才三中隊は独立混成才六十二旅団に配属番付附近、警備	
	独立八九旅団編成	
昭二〇、三三	奉化附近警備集合作戦参加	
	行動開始し、陸路及海路に依り奉化附近に移駐	
	同地附近警備	
五五		

三三八
終戦と友り上海着
六三
吳松附近に集中

~287~

3142

独立混成第八十九旅団砲兵隊略歴

陸軍少佐 川上 蕭 治

年月日	概	要
昭二。三五	浙江省樂清縣にて編成 編成人員 五四七名	
一部帰還人員 四二一名	一次 一二一名	
二次 三〇名	一部帰還のための指揮官陸軍大尉五味利均	
三三	上海港出発	
八六	奉化出発	
八六	上海着	
昭二。一四	上海港出発	
一七	佐世保上陸	
部隊長陸軍少佐川上蕭治以下二六名	上海吳松日華紡業中官にあり	
一三	宮石伍長業務整理のため二日市着	
一六	完了す	

独立野戦高射砲第五十三中隊（至能水二一七四部隊）略歴

陸軍大尉 上野 有

年月日	概要
昭五、二六	於千葉県回村台 中隊長 陸軍大尉上野有 以下 一六一名
自昭五、八八 至 〇、六	上海附近の防空警備
自 一〇、七 至昭二、五三	浜清縣附近の防空警備
自 五、三 至 七、二	兼号作線に参加杭舟附近に転進
自 五、三 至 八、四	浙江省杭縣笕橋飛行場防空警備
自 六、五 至昭三、一五	終戦に伴い上海に兼船開選の為待機
昭二、一五 一八	帰還の為上海出発 佐世保に上陸 召集解除

~289~

3144

年月日	概
昭三、一五 一八	<p>上海出発</p> <p>佐世保上陸隊召束解除</p> <p>入院患者 三名</p> <p>死亡者 三名</p> <p>炭置者 一名</p> <p>業務整理者 二名</p> <p>除 隊</p> <p>召束解除者 一五六名</p> <p>合 計 一六五名</p> <p>業務整理者</p>
一六 一四	<p>陸軍大尉上野有召解</p> <p>陸軍曹長西井起近召解</p> <p>陸軍伍長重田信三</p> <p>入院患者尊運の爲街立梶成才八十九歳用司令部に残置せしむ</p> <p>死亡者</p>
昭三、一六 四三	<p>陸軍上等兵久保田勇「B型パラチフス」にて上海第一陸軍病院に於て死亡</p> <p>陸軍兵長丸山九七エ門「脚気衛心系」にて浙江蒼南青県に於て死亡</p>

3 外 中支 3

~290~

3145

八面	陸軍軍曹坂巻孝史「銃握性腸閉塞」にて龍舟兵站病院にて死亡 入院患者
昭五、八五	陸軍一等兵千原遠雄「内痔核」にて上海サ一陸軍病院に入院
九三	陸軍一等兵松本清一郎「左腎臓膿腫」にて上海サ一陸軍病院に入院
昭二、一三	陸軍兵長榎島房次郎「左胸膜 胎後症」にてサ百五十七兵站病院に入院

~291~

3146

野戦機関銃第六十三中隊（至銃サ一二五七部隊）略歴

陸軍大尉 舟橋保彦

年月日	概略
昭一九、七、三	鏑成完結
七、四	川司塔出帆
八、六	水十三軍部下に入らしめらる
八、六	上海着
八、五	上海附近警備
八、五	温州作戦参加
昭二〇、二、五	軍令陸甲水十八号により新立砲成水八十九旅団に統合せらる
六、六	集合作戦参加
七、三	水六軍指軍下に入らしめらる坑井附近の警備
八、六	上海集結
昭三、一、五	上海出発
一、八	任世保入巷

～292～

3147

創立親戚第八十九旅団工兵隊（至船中二三〇八八部隊）略歴

陸軍少佐 附 官 荒

年月日	概略
昭三〇・三・二五	軍令陸甲中一八号に依る
中支那浙江省乐清縣重石	編成以來温州固辺地区に於て陣地構築及架橋作業に従事
六・三	集合作戦に参加
奉化縣奉化に至り同地附近の警備並に陣地構築作業に従事	終戦の爲上海集結を命ぜられ奉化出発
八・八	上海到着
九・一	復員の爲上海港出帆
昭三二・一・二二	佐世保港到着
一・一五	中一帰還
一・一	鹿児島島到着
一・八	中二次帰還 佐世保港着

~297~

独立混成第八十九旅田通信隊（至銃中二三。八九部隊）略歴

陸軍大尉 北村 一男

年月日	概要
昭三、二、五	軍令陸甲オ一八号により旅田通信隊を編成す 浙江省永嘉縣温州にて編成
五、五	東合作戦に参加 奉化（浙江省）に駐屯 同地警備す
八、三	終戦の茲集結を命ぜられ上海（呉淞）に集結す
昭三、一、五	復員の途上海出発
一、八	佐世保に入港す

~295~

3150